

軍務局

供覽

教育部

艦政本部

第一部

軍令部

次長

旗秘第二八九號

第一課

常備艦隊中水雷發射演習成績進奉

本年十一月二十二日

西日廣島灣前川口附近於施行候甲種

水雷發射演習成績別表一通及進奉候也

自本演習依テ研究シ得タル事自略別紙一通ニ候也

明治三十四年十二月九日於横須賀軍港旗

備艦隊司令長官南田秀松

海軍大臣山本權兵衛殿

第一局

海軍

0259

12/10

一 甲種水雷發射演習ニ依リ研究シ得タル事實
 甲種水雷ハ艦隊間ノ戰鬪ニ於テ敵艦隊其有效
 距離ハ力ニ入リタルヲ僅クシテ上ハ照準ノ未リ次第發
 射シ敵艦隊中ノ或ル數艦ニ損害ヲ與フルノ効力ア
 リト認ム
 二 甲種水雷ハ單艦間ノ戰鬪ニ於テハ其効力特ニ乙
 種ニ勝ルヲ見ズ是レ表ニ距離ヨリ單艦ヲ照準シ發射シ
 命中ヲ期スル事ノ煩ル難キヲソテナリ蓋シ斯カル場
 合ニ於ケル表ニ距離ヨリ發射ハ運試ソシ發射ト心得
 六間章 ナカラン
 三 甲種水雷ハ能ク其調整通リ最大距離ニ到達ス
 四 驅逐隊(艦)ヲ以テ敵艦隊ヲ攻撃スル場合甲種水雷ノ

五

効力大ナルモアリト認ム

敵艦隊ノ速力及針路ヲ知ル事ノ粗密ハ命中ノ粗密

ニ直接關係スル所ナルガ此度ノ實驗上彼我艦隊行

遇フノ場合ニ於テ互ニ各々平行反對ノ針路ヲ取ルトキ

敵ノ推定針路其實針路ト一点内外ノ差アルモ命

中上大ナル誤差ヲ生ズルヲ認メザレトモ敵艦隊ノ速力ニ

於テ其推定セルモノ實速力ニ違ヘルトキハ命中ヲ誤

ル事實ニ大ナリ故ニ艦隊戰闘於テ敵先豆艦及敵艦

ヲ照準スル事ヲ止メ其後續若クハ前續艦以内ノモ

ノヲ照準セシムル事トセバ大ニ誤笑ノ為メ無効ノ發射

ヲナスノ機ヲ減ズベシ

六

甲種水雷ノ効力ヲ發揮セシムルニ最も適良ナル艦隊ノ

運動就テハ今回ノ演習未タ研究ヲ遂ケザリシモ早

0261

縦陣ハ甲種水雷發射ニ最モ便利ナルト同時ニ甲種水雷為ソ最モ容易キ陣形トス

七 驅逐艦ハ舵ヲ轉シ回轉シテ發射ヲ行フモ命中ノ算ニ比較的大ナリト認ム

以上ハ今回甲種水雷發射演習ノ成績ヨリ講究シ得タル所ニシテ之レヲ昨年ノ靜的發射ニ比較スレバ今回ハ悉ク動的ニシテ意外ノ命中ノ算ヲ得タリ然レドモ發射回数尚少ナカリシカ為ソ之ヲ以テ直ニ決定セル事真トナスニアラズ他日ノ演習實驗ニ依リテ益研究スル所アラントスルモノナリ

左記參考ノ為ニ相添フ

- 一 甲種水雷發射演習要領并ニ實施規約
- 二 動的司令海軍大尉吉岡範策報告

甲種水雷發射演習要領並實施規約

一 本演習ハ本月二十一日廣島灣門前川附近ニ於テ施行ス

二 本演習ニ於テハ艦隊戰或ハ驅逐艦ト艦隊トノ戰鬪ニ於テ

甲種水雷ノ効力如何ヲ研究シ併セテ同水雷ノ効果ヲ發

揮セシムルニ適良ナル發射運動及其時機ヲ研究セントス

三 本演習ニ參與スルキ軍艦ヲ初瀬、朝日出雲、八雲、般若手

明石、笠置、千早、夕霧、朧、十艦トス

四 本演習中各軍艦及動的ノ速力ヲ定クルト次ノ如シ

(1) 戰艦及一等巡洋艦 十節

(2) 二等巡洋艦以下及報知艦 十二節

(3) 驅逐艦 十六節

(4) 動的 六節

圖說

五本演習中各種水雷發射距離次ノ如シ

十八尹水雷 二千五百乃至 米突

十四尹水雷 二千乃至 米突

六本演習ハ之ヲ六回ニ分チ施行ス第一回第二回戰艦及

一等巡洋艦ヲ以テ發射シ司令長官親ラ之ヲ率ユ第

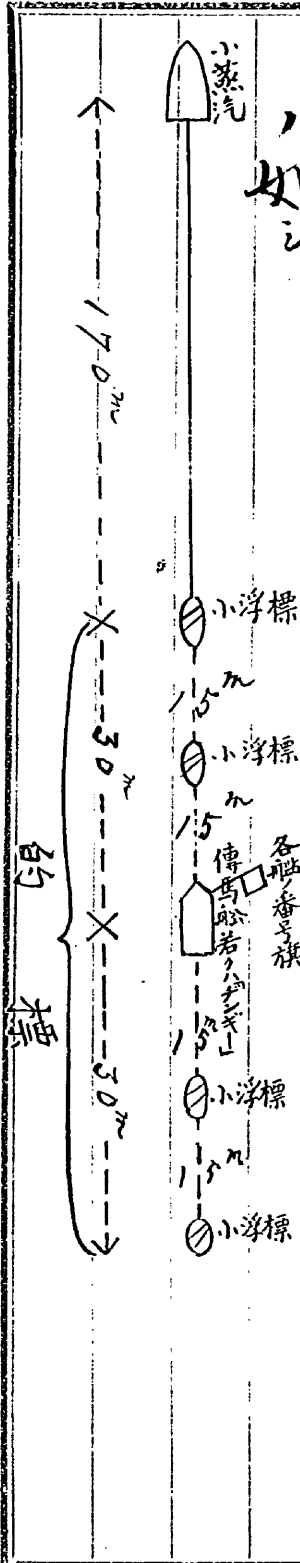
三回第四回二等巡洋艦以下及報知艦ヲ以テ發射シ先

任艦長之ヲ指揮ス第五回第六回驅逐隊ヲ以テ發射

シ驅逐隊司令之ヲ指揮ス

七標的小蒸汽船ヲ以テ曳カシム其構成及曳索ノ長サ等次

如シ



演習ノ年

八、動的ハ敵艦隊ニ擬シ各四百米突ノ距離ヲ隔テ、駛行スルモノトス
 則テ汽艇ヨリ動的迄二百米突トシ此動的ヨリ後續汽艇迄二百
 米突ナリ
 九、一等巡洋艦以上各一何ノ動的ヲ出シ第一回第二回後射ト
 於テハ各其所屬艦ノ標的トナシ第三回以下ニ於テハ特ニ定メラ
 レタル艦ノ動的トナスモノトス
 十、各動的曳方ニ用ユル小蒸汽艇ニ少尉ヲ指揮トシ兼艇セシメ
 別ニ大尉一名ヲ命ジテ全動的隊ヲ指揮セシムルモ動的司令ト称ス
 十一、動的艦ニ監的者トシテ少尉候補生一名兼艇スルモノトス
 十二、採拾船ニ水雷艇若ハ汽艇(少尉若ハ少尉候補生之ヲ指揮ス)及
 端艇(少尉候補生之ヲ指揮ス)ヲ用ヒ標的航路浮標ノ西側ニ於
 テ航路ヲ距ル約百米突ノ所ヲ各汽艇四百米突(其順序ハ採
 拾司令之ヲ定ム)ノ間隔ヲ以テ動的隊ト同方向ニ航進スヘキモノトス

但シ採拾端艇ハ其中間ニアルモノトス則チ汽艇ヲ二百米突ニアリ

三、水雷採拾ハ各其己レト近ク浮出シタルニ就キ之ヲ行ト数名信號

ヲ以テ其採拾セル水雷番號ヲ掲ケ豫テ渡サレル水雷番號

表ト照シ其所屬艦ニ持行クモノトス又水雷沈没ノ節其位置ヲ

表示スルタメノ浮標一個ツヲ準備シ置クモノトス

五、採拾諸艇ヲ指揮スル為メ大尉一名ヲ置ク之ヲ採拾司令ト称ス

五、水雷艇一隻宛ヲ各發射艦ノ艦尾ニ近ク續航セシメテ少シク標

的側ニ偏シ位置ス其所屬艦水雷ヲ發射セルヲ見テ直チ水雷

ノ走跡ヲ追ヒ其浮出ヲ見ルトキハ之ヲ最近ノ採拾艇ニ報シ以

テ水雷ヲ見失ハサル様注意シ時宜ニ依リテハ自ラ採拾ノコ

トヲナサシム

此ノ水雷艇ニモ亦水雷沈没ノ節其位置ヲ表示スルタメノ浮

標二個宛ヲ準備シ又採拾要具ヲ備ヘ置クヘキモノトス

六 前項見張艦ハ其走跡ヲ追ヒタル所屬艦水雷採拾ヲ確
認シタル後ハ他艦水雷ノ浮出ノ儘採拾セラヌ居ルモノナキ
ヤノ注意ヲ以テ標的ノ附近ヲ巡航搜索ス(キモノトス
七 各艦ノ樁樓ニ適宜ノ見張人ヲ置キ水雷ヲ見失ハサルコト
ニ注意セラルモノトス

六 艦隊(駆逐艦)發射準備ヲ整(整備旗ヲ掲ケテ之ヲ表示ス)發
射航路ニ入ルトキハ嚮道守艦ヨリ空砲(六発砲)ヲ放テ汽笛
ヲ鳴ラレ之ヲ動的隊ニ報スルモノトス

九 艦隊(駆逐隊)ハ一回ノ發射ヲ終レハ各艦ノ危険旗ノ下ル
ヲ待ツテ列ヲ整(ナカラ速カヲ減シ採拾艦ニ近ツキ採拾
シタル水雷ヲ取入レ然リタルトキハ各艦整備旗ヲ掲ケ之ヲ
表示スルモノトス

十 艦隊(駆逐隊)發射航路ニ入ルトキハ各艦發射舷側ノヤ

一、タームニ赤旗ヲ掲ケ發射ト同時ニ之ヲ下スモノトス（不發ノ
トキハ半下トナシ再々發射スルコトナシ）

三、一面發射ノ後採拾船見張艇ハ其業ヲ了ラハ速ニ定位

置ニ就キ次回發射ニ應スルノ準備ヲナスヘキモノトス

三、航路浮標ノ沈置ハ驅逐隊司令ノ担任トス

三、發射ニ從事セサル艦隊ノ諸艦ハ一時列外ニ出テ艦隊ノ

運動及發射ヲ妨ケサル位置ニ於テ可成發射場ニ近ク

漂泊スルモノトス

艦隊航路浮標及動的航路浮標、配設左ノ如シ



甲島

(備考)

八雲、採拾汽艇ハ笠置ヨリ出ス

採拾汽艇及端艇ハ水雷番號ヲ表示スル為ノ端艇信號旗ヲ準備シ置ク

第一回發射(十一月二十一日)

一本發射ニ於テハ彼我艦隊並行、針路ニ遭遇場合我

先頭艦ハ敵ノ殿艦ヲ我殺艦ハ敵ノ先頭ヲ狙ヒ各其照

準線ニ乘レハ發射ヲ行ヒ而シテ先頭艦及殿艦以外ノ諸

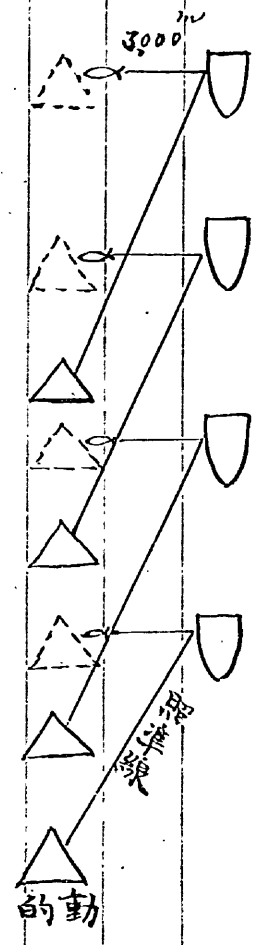
艦モ各其番號順序ニ從ヒ標的ヲ發射スル法ヲ施行ス

(註)戰術上ヨリ考察スルトキ此法非難ノ点多シト雖發射

演習上甲種水雷ノ命中公算ヲ知ラントスルニ於テ利

益大ナルモノアルガ故之ヲ行フモノナリ

艦隊



二本後射ニ參與スヘキ軍艦及艦隊番號左ノ如シ

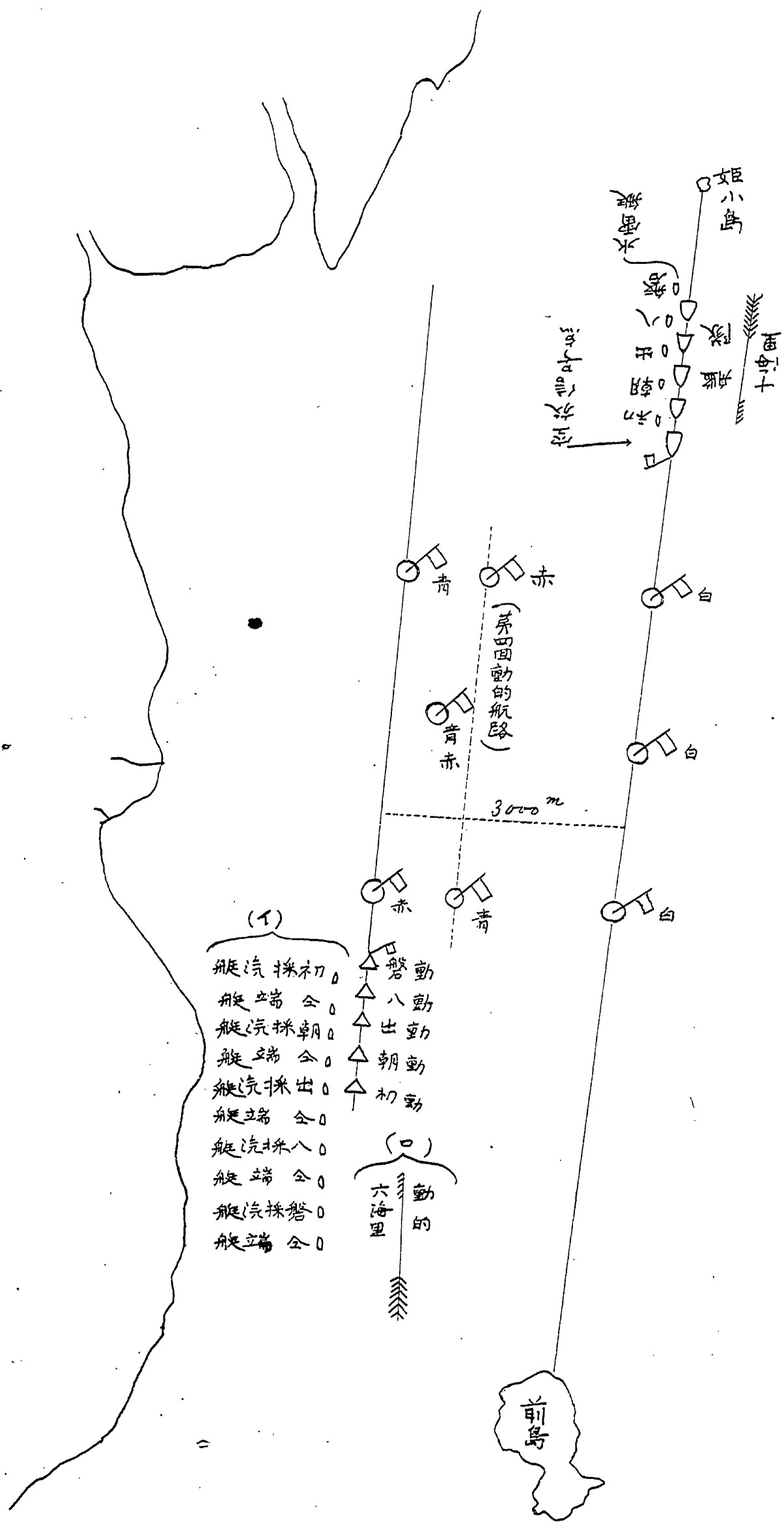
初瀬(一)朝日(二)出雲(三)八雲(四)磐手(五)

三艦隊ハ姫小島ノ南ヨリ前島ニ向ヒ航路浮標ニ沿ヒ航行ス

動ハ赤色浮標西南ニアルカノ南凡ソ八百米突ヨリ出渡シ西方ニ

位置セル赤色浮標ト青色浮標ヲ貫テ航路ニ從ヒ航行

スルモノトス



島甲

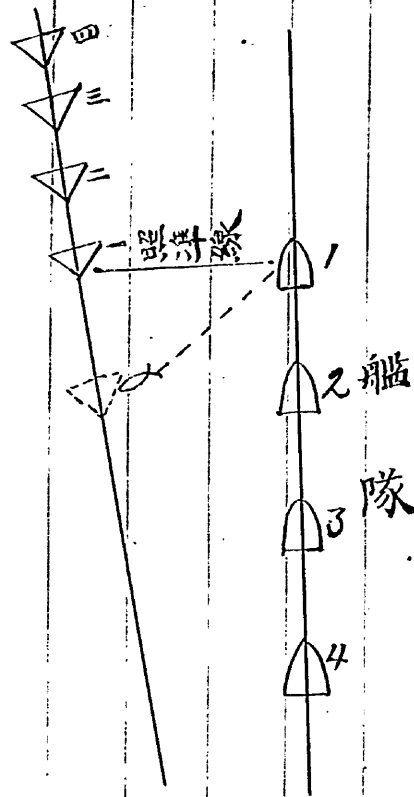
第一圖

第二回及第四回發射於艦隊位置及動的運動ヲ示ス

但し第四回於動的艦隊航路近キ赤及青浮標ヲ貫テ航路ヲ取ルキモノトス

第二回發射 (十一月二十一日)

一、本發射ニ於テハ彼我艦隊遭遇ノ際針路並行ナラス敵艦隊ノ針路ハ斜ニ我ニ近付カントレツ、行過ケル場合ニ當リ我艦隊ノ先頭艦ハ敵艦隊ノ先頭艦ヲ二番艦ハ敵ノ二番艦ヲ三番艦ハ三番艦ト順次照準發射ス法ヲ施行ス



二、本發射ニ參與スル軍艦ハ第一回ニ同シ
 三、艦隊ハ前島ノ北ヨリ姫小島ニ向ヒ航路浮標ニ沿ヒ航行

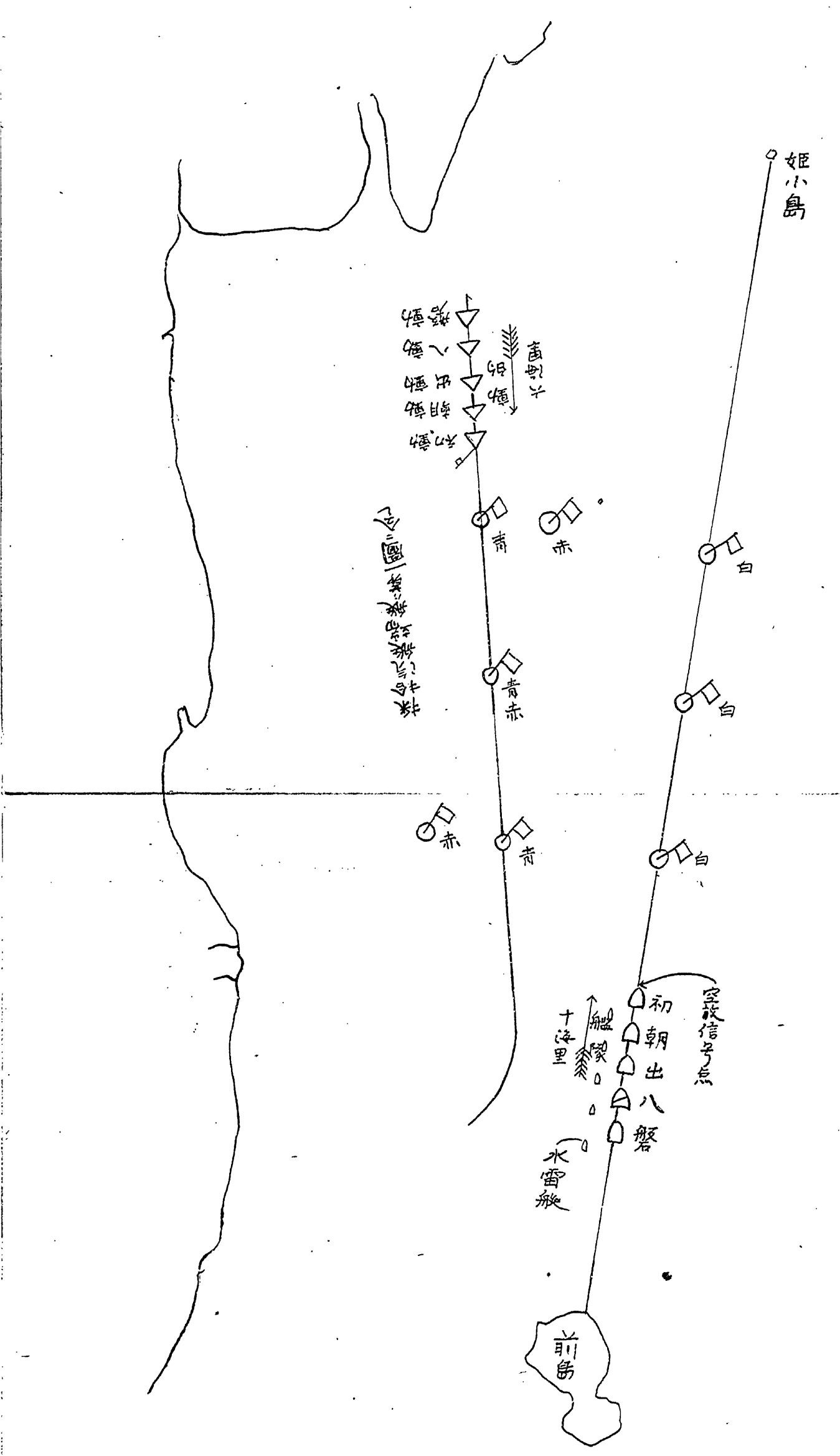
動的ハ青色浮標ノ北西九八百米突ヨリ出渡レ二個
ノ青色浮標ヲ貫ケル航路ニ従ヒ航行スヘシ

海
軍

0276

島甲

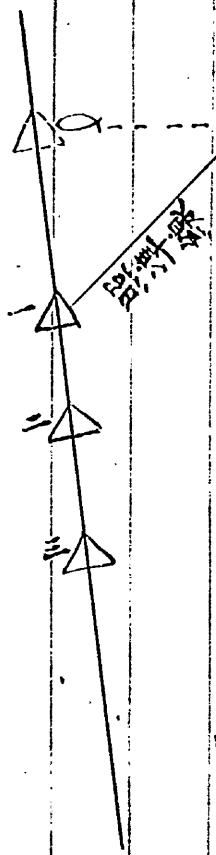
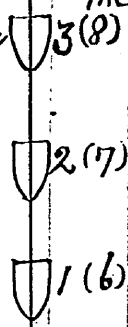
第二圖 第二回發射ニ於テ艦隊及動向等位置航路運動ヲ示ス



第三回漫射 (十一月二十二日)

一本漫射ニ於テ彼我艦隊遭遇際十路並行ナラス敵艦
 隊ノ針路ハ斜ニ我ヨリ遠カラシトシテ過クル場合ニ當リ
 我艦隊ノ先頭艦ハ敵艦隊ノ先頭艦ヲ二番艦ハ敵ノ二
 番艦ヲ三番艦ハ三番艦ト順次照准テ漫射スル法ヲ施
 行ス

艦隊番號



二本漫射ニ於テ與スルキ軍艦及艦隊番號

明石(六) 笠置(七) 千早(八)

海軍省

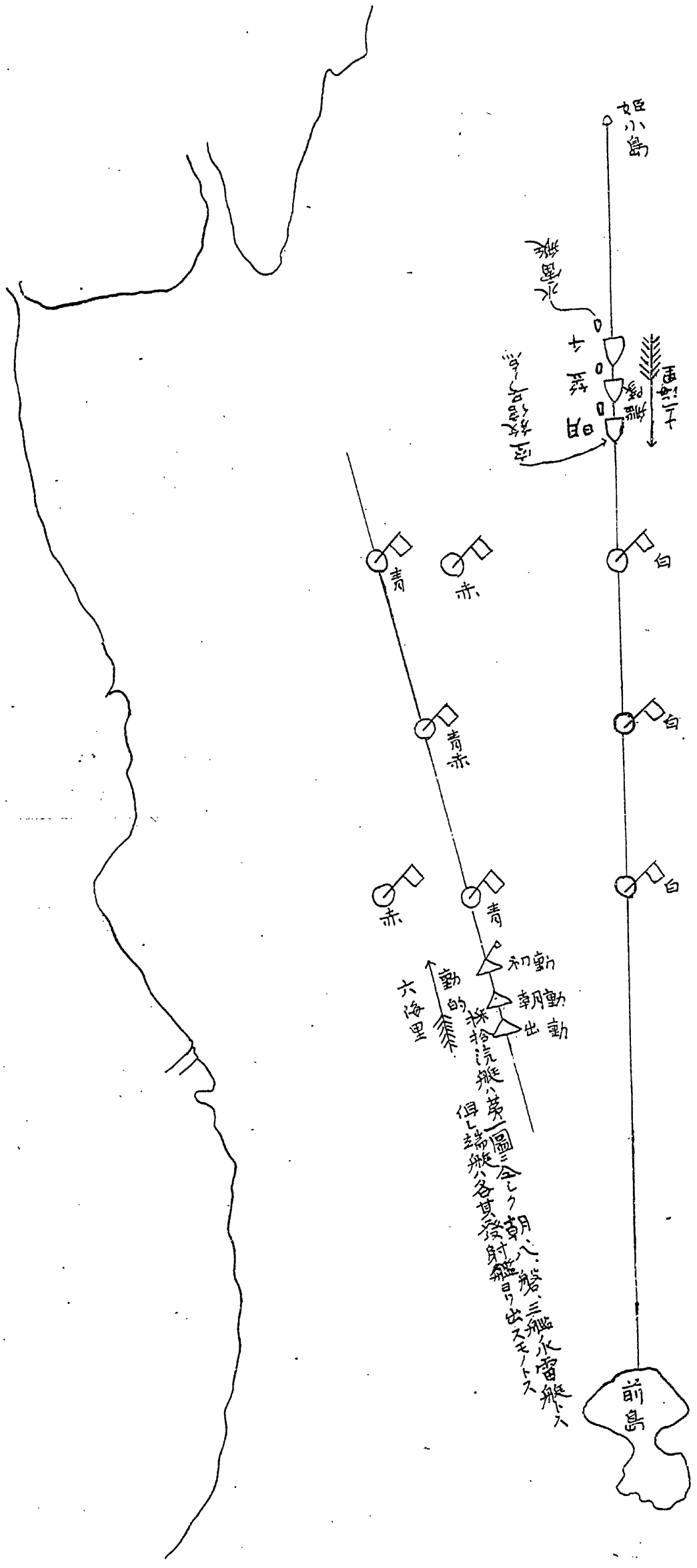
品名	石笠	置	千早
動的	初瀬	朝日	出雲
採拾船	初瀬	朝日	出雲
見張水雷艇	朝日	出雲	出雲
四艦隊	第一面	動	青色浮標
ノ南ノ東	九八	ノ出	青色浮標
貫キタル	航路ニ	從ヒ	航行スヘシ

0279

島甲

第三圖

第三回發射位置及運動ヲ示ス



第四回發射 (十一月二十二日)

一 本發射ハ第一回ニ全レ

二 本發射ニ參與スヘキ軍艦及艦隊番號ハ第三回ニ

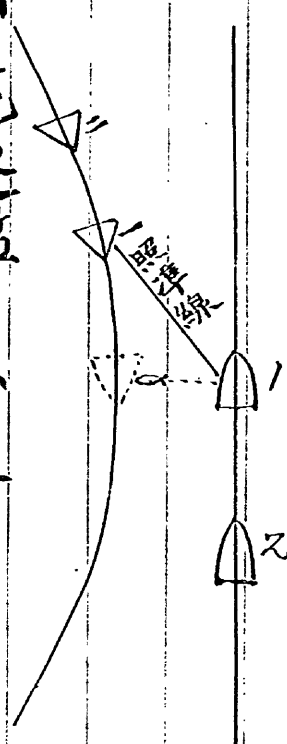
全レ

三 本發射ニ於テ動的ノ航路ハ一千米突ノ赤及青浮

標ヲ貫キタル線トス

第五回發射（十一月二十三日）

一 本發射ニ於テハ我駆逐隊敵艦隊ト遭遇際敵我
 ニ對シ針路ヲ轉レ去ラントスルノ状態ニテ行過クル場合
 當リ我駆逐隊ノ先頭艦ハ敵ノ先頭艦ヲ我ニ番艦ハ敵
 ノ二番艦ヲト順次照準發射スルノ法ヲ施行ス



二 本發射ハ駆逐艦ヲ以テ行フモノニシテ之ニ參與スル艦名左ノ
 如シ

夕雲 龍

三 本發射當リ見張水雷艇動的及採拾船ヲ臨時付属セン

五
 五

山左ノ如シ

品名 艦名 夕霧 隴

見張水雷艇 初瀬ノ水雷艇 朝日ノ水雷艇
実行ニ當リ見張艇ヲ
四隻ニ増加ス

動的 的 初瀬ノ動的 朝日ノ動的

採拾 船 初瀬朝日採拾船 出雲艦手採拾船

四 本發射ニ於テモ見張水雷艇ヲ用テ雖トモ其速力不同

尤ガ故ニ駆逐艦自ラモ其發射ヲ了セバ餘クニ回頭シテ

水雷ノ走跡ヲ見張ルコトヲナスヘシ此際後續艦發射

線ニ近カラサル様最モ注意スヘシ

五 驅逐隊ノ航行ハ第二面發射ニ於テ艦隊ノ航行ニ合レ動的ハ

青色浮標(北西)ヨリ出發シ五月赤浮標ノ所ニテ針路

ヲ轉シ赤色浮標(南西)ニ至ルノ航路ヲ取ルモノトス

0285

第六回發射 (十一月二十二日)

一 本發射ニ於テハ敵艦隊ハ直線ノ針路ヲ持續スルモ

我駆逐隊敵ニ對シ針路ヲ轉シ去ラントシテ發射スルノ

法ヲ施行スルモニシテ駆逐隊ノ先頭艦ハ敵ノ先頭艦

ヲ我ニ番艦ハ敵ノ二番艦ヲト順次照準發射スルモノナリ

二 本發射ハ第五回發射ト連續施行ス(實際ニ當リ第五回

發射ノ水雷採拾ノ後施行セリ)

三 動的及採拾船ノ事見張水雷艇ノ事等第五回ニ

全シ

四 駆逐隊ハ第五回發射ヲ了リテ十六點ニ正面變換ヲナシ

航路浮標ニ沿ヒ航行適當ノ距離ニ至ラハ先頭艦ハ

左舷ニ回頭シテ發射ヲ行ヒ敵艦隊ヨリ遠サカルノ軍

動ヲ取ルベシニ番艦ハ先頭艦ニ倣ヒ發射スヘシ動的

海軍

ハ第五回發射了リテ左十六点ノ正面變換ナレ青
色及赤色浮標ヲ貫ケル線ニ沿ヒ航行スベシ

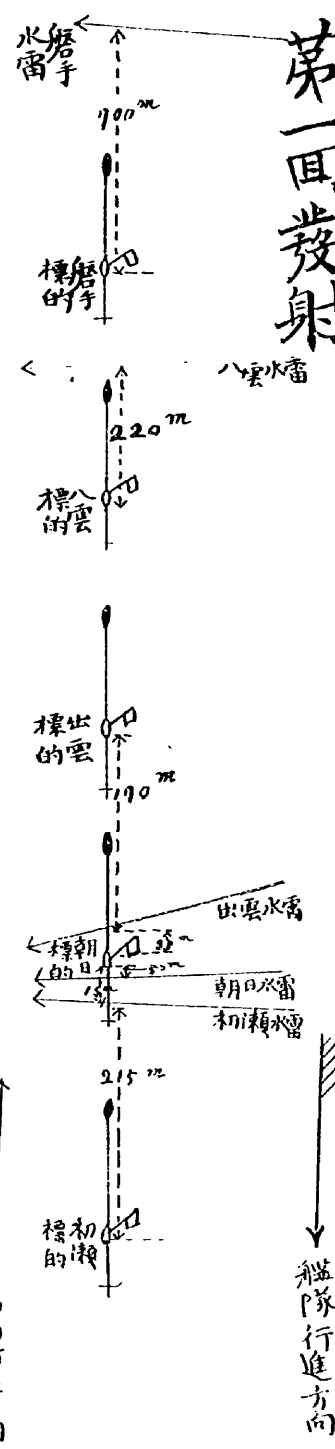
0287

甲種水雷番號表

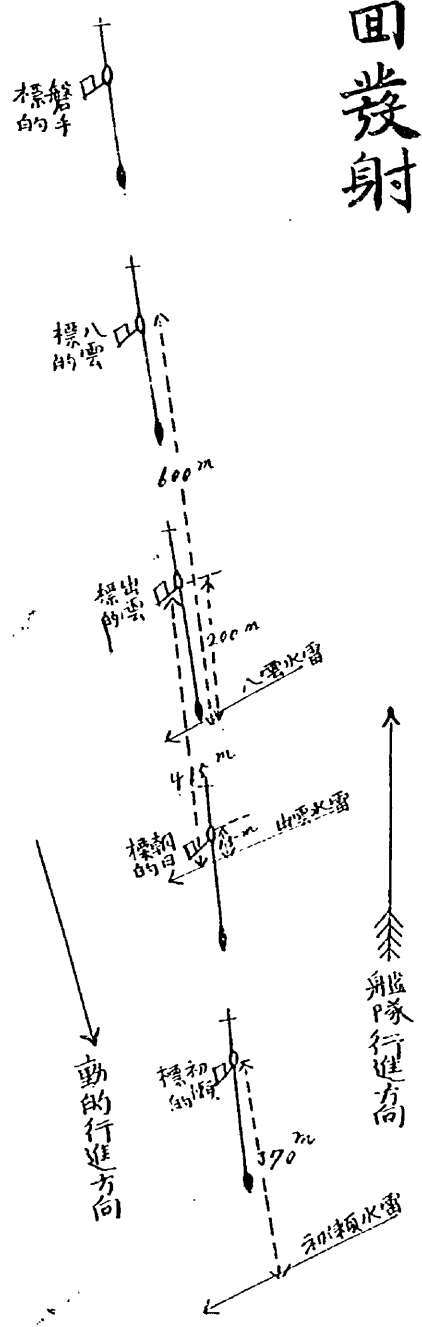
初	全	朝	出	磐	八	笠	明	千	夕	臘
瀨	日	雲	雲	手	雲	置	石	早	霧	
十四卯 七二七七、七二七六、七二七八、七二七九	十四卯 七二五三、七二五四	十八卯 六八七九、六八八〇、六八八六	十八卯 六九一一、六八九八、七二五八	七二八八、七二七七	十四卯 六八八三、六八八四、六八七一	十四卯 六二八一、六二〇六、六二七九	六二〇九、六二八二、六二一八	十四卯 六二七〇、六二七一	十六卯 五九六四、五九六九	十六卯 五九七五、吳二六

0288

廿四年十月廿二日甲島附近於施行
 甲種水雷發射成績動的司令海軍大尉吉岡範策報告
 一、第一回發射



二、第二回發射

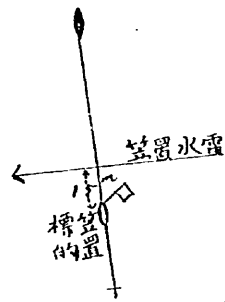
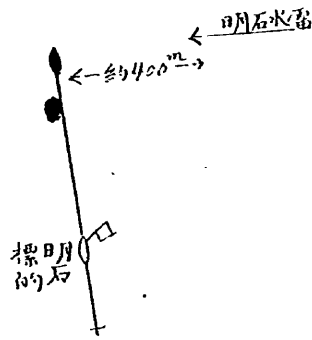


記事

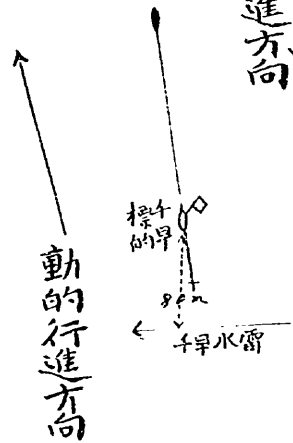
- 一、動的速力六海里、豫定ナリシモ、或ル動的ニ用キタル汽艇速力遅緩ナル為メ約五海里弱ニテ駛行セリ
- 二、水雷ノ行跡ハ約七八十米突、距離ニ標的ニ近キレ時ヨリ認め得タリ
- 三、第一回發射ニ於テ朝日ノ動的ノ近傍ヲ三個ノ水雷通過セルハ第一出雲ノ水雷ト認めラルルモノ通過シ次ニ若干時間經過ノ后チ朝日ノ水雷及初瀬ノ水雷ト認めラルルモノ順次ニ通過セリ
- 四、第二回發射ニ於テ朝日及磐手ノ水雷ノ行跡ヲモ認めタリ

0290

一、第三回發射

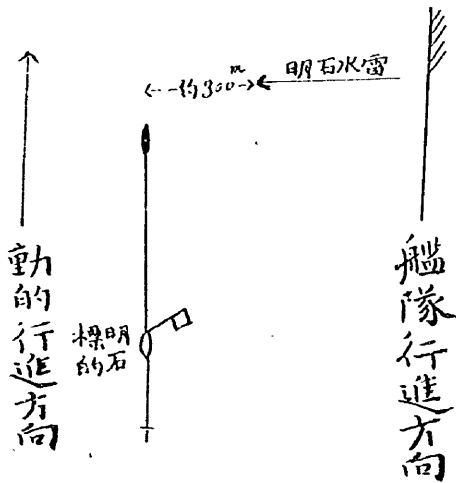
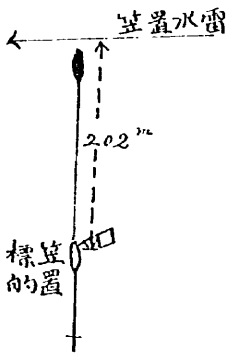
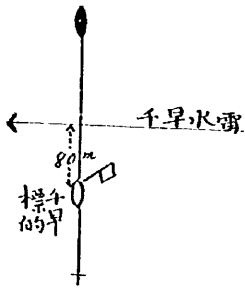


艦隊行進方向



動的行進方向

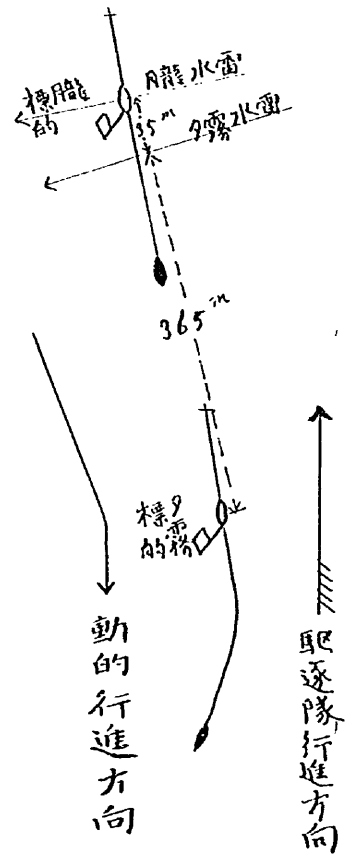
二、第四回發射



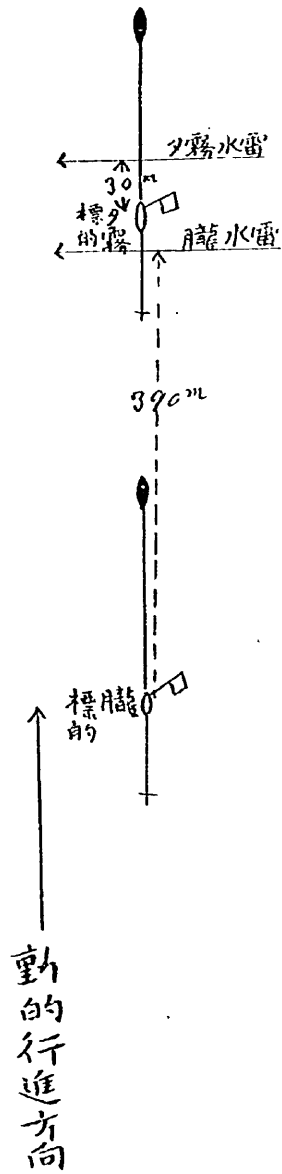
動的行進方向

艦隊行進方向

三、第五回發射



四、第六回發射



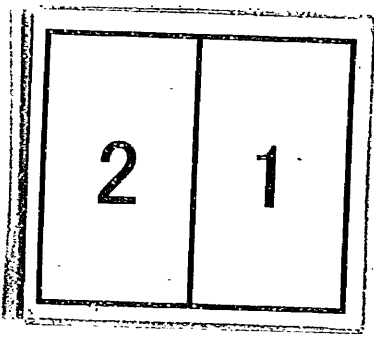
0292

記事

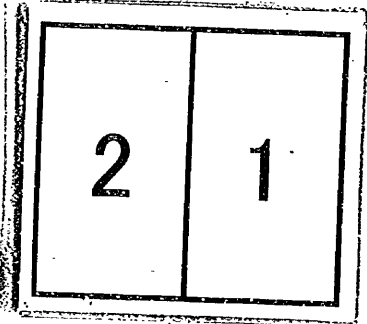
- 一、動的、速力ハ約五海里半ナリ
- 二、水雷ノ行跡ハ百米突乃至六七十米突ノ距離ニ近キレ時認めラ得タリ
- 三、第五回及第六回ノ發射ニ於テ一標的ニ二回水雷通過セシハ第一回ノ發射ニ於テハト同シク若干秒時ヲ經テ順次ニ通過セリ

0293

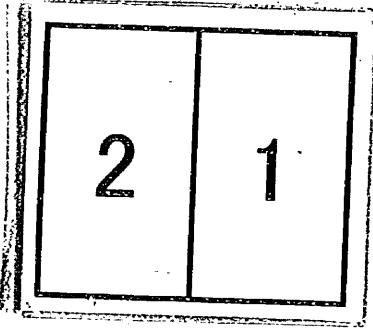
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

